



令和6年度第2回学校運営協議会（CS会議）開催

令和6年9月9日（月）15：30より上山中学校で開催されました。



〔1〕開会のあいさつ 山崎 光子 会長

本日、午前中、体育祭の応援練習を見学しました。応援リーダーを中心に試行錯誤しながら主体的に取り組む様子や生徒同士が協力することを経験して、毎年それらを積み上げてきている成果を見ることができました。先生方は生徒の自主性を尊重しながらサポートされておりました。

また、過日、コミュニティスクールの講座を受講し、保護者・地域・学校が一体となり、子どもを取り巻く課題解決のための知恵を絞り、協力して役割分担を考えていく必要があることを学びました。

本日はテーマの具体的な取り組みについて協議していきたいと思っております。

〔2〕校長あいさつ 桑原 通泰 校長

本校は今、ビッグスワンにおいて初めて開催する体育祭に向けて準備を進めており、予測不可能な状況に対応するため職員も頑張っております。当日、ご協力よろしく申し上げます。

本日は、上山中学校の子ども達が自信を持って生活していくための方策をご協議いただきますが、その背景の部分で前回の学校運営協議会でもお話した子ども達の自己有用感を育てることが大事だと言われております。地域のいろいろな場面で子ども達にお声がけいただくことがその支えになると思われまますので、今後とも引き続きよろしく申し上げます。

〔3〕上山中学校の現状を課題 齋藤 大紀 教頭

（1）全国学力学習状況調査の結果分析

本年度、本校では学校運営の基本方針で生徒が主体的に行動するための原動力となる「自信」を育むことを目指している。そこで本年4月、3年生を対象に実施した「令和6年度全国学力・学習状況調査『生徒質問紙』」から「自信」に関わる質問を取り上げ分析した結果、令和5年11月の調査から、おしなべて改善傾向にあることがわかった。

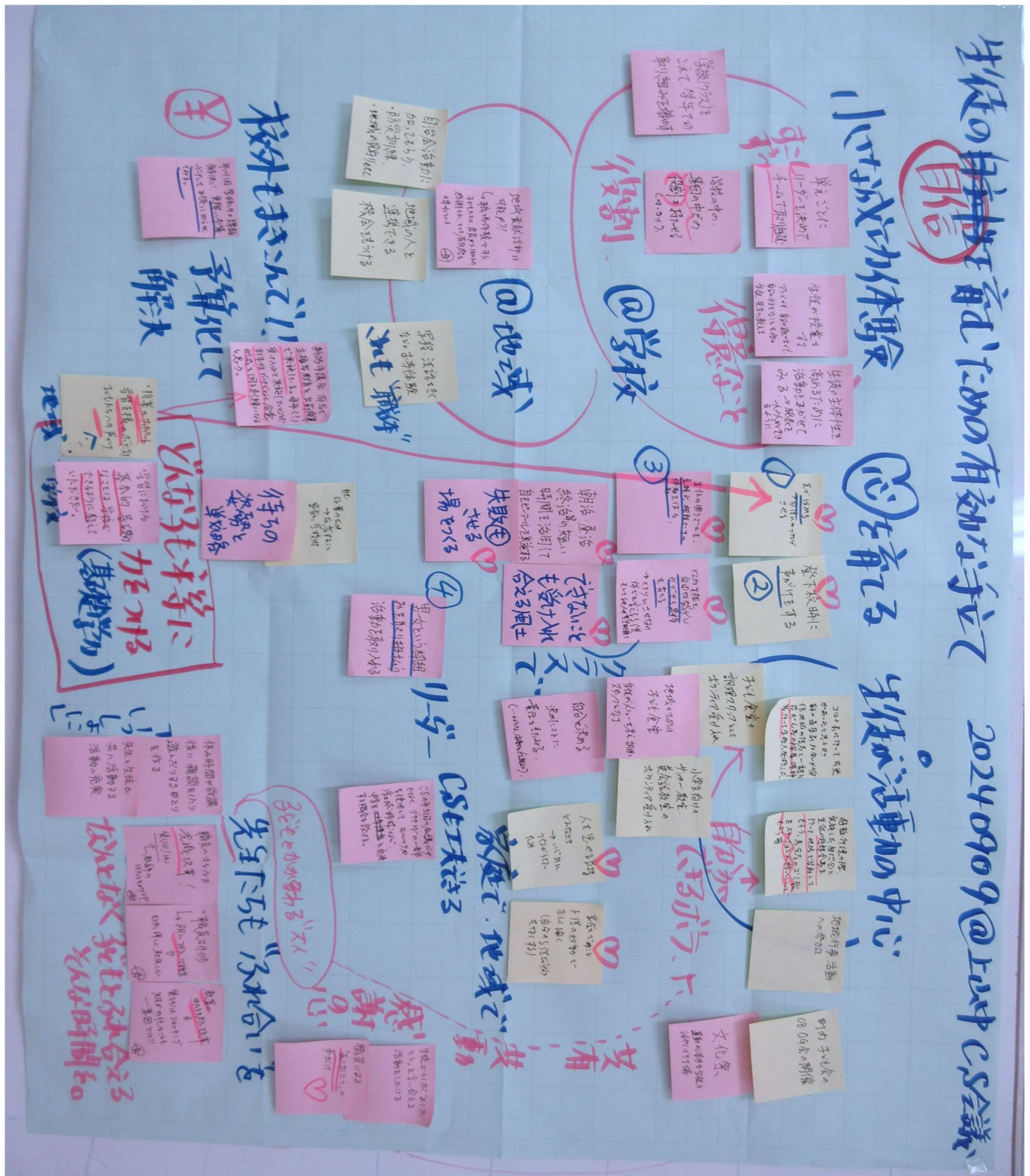
改善傾向の背景・理由として、昨年度「主体性」を育む教育活動に取り組んだ成果の表れ、2学年後半から最高学年を意識した活動が増え、自己肯定感や自己有用感が高まったことに加えて、3年生になったことによる「責任感」の芽生えなどによって、「自信」が醸成されたことが考えられる。

一方で、ほとんどの質問において「あてはまる」と「あまりあてはまらない」と答える生徒が多く、二極化している様子がうかがえる。大規模校であるがゆえに、全ての生徒が活躍できる場面を設定することができていなかったり、いわゆる学校生活だけでは自分の得意な分野で活躍する機会がなかったりする生徒が一定数いるのかもしれない。

（2）意見交換

生徒の「自信」を育むための有効な手立てについて「学校でできそうなこと」と「地域で協力できそうなこと」を各々考え、ファシリテーションの技法を用いて意見交換しました。

◇ (2) で出された意見をグループごとにまとめ可視化することで、参加者の思考が深まりました。



[4] 閉会のあいさつ 朝倉 奏 副会長

教頭先生から説明の中で、大規模校がゆえに生徒達の回答に二極化がみえ、全員が活躍する場を設けることが難しいというお話がありました。近日、行われる体育祭においても全員が活躍できるわけではなく、楽しみにしている子もいれば、あまり行きたくないと思っている子もいるでしょう。行きたくなくてもなんとか体育祭に足を運ぶのは学校が大事な場所で、そう意識できるのは先生方の普段からの働きかけによるものだと思います。体育祭は嫌だと思っている子も行ってみて参加したら意外と良かったり、何か学びがあったり、得るものがあったりする場なのではないかと今日勉強させていただいて感じました。